

# 庄内麦情報

## 第4号

平成30年10月5日

庄内総合支庁 産業経済部

農業技術普及課

TEL (0235) 64-2103

FAX (0235) 64-2104

### 1. 播種作業前にほ場の準備を進めましょう

- 現在、麦類の播種時期を迎えています。雑草が繁茂している圃場では事前耕起を行いましょよう。
- 湿害は麦類にとって最も大きい障害であるため、排水対策は必須です。排水が不備な圃場は、播種前に明きよを掘り、さらにサブソイラで心土破碎を行うことで排水対策を万全にしましょう。
- 麦類は酸性土壌に弱く、土壌pHの適正值は**小麦：pH6.0~6.8、大麦：pH6.5~7.5**が目安です。事前に土壌pHの測定を行い、下表を参考に苦土石灰や炭酸カルシウム等を施用しましょう。

図 圃場の排水対策のイメージ

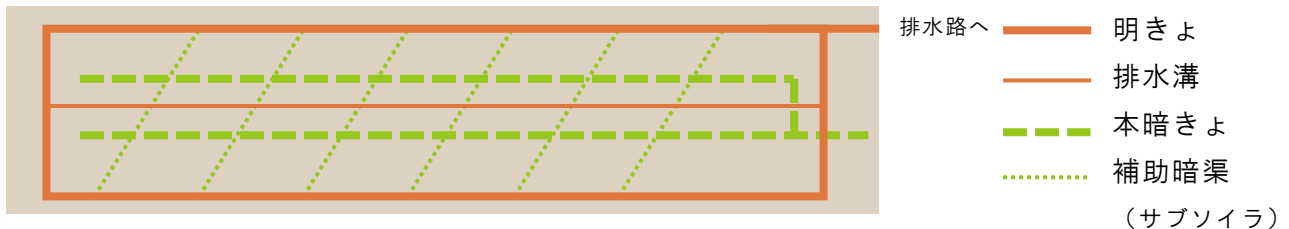


表 pHを1上げるのに必要な苦土石灰量の目安(kg/10a)

土壌pH	砂土	壤土	埴土
4.9以下	60	200	340
5.0~5.4	40	120	200
5.5~5.9	20	60	100

砂土：粘土含量15%以下、砂含量85%以上

壤土：粘土含量0-15%、砂含量40-60%

埴土：粘土含量25-45%

### 2. 品種の特徴を理解しましょう

品種名	出穂期・成熟期の目安	草姿	長所	欠点
ナンプコムギ (小麦)	出穂期 5月11日 成熟期 6月下旬	長稈。穂数はやや少ない	品質・加工適正が優れる。品質が低下しにくい	多肥で倒伏しやすい。 開溝未熟粒が発生しやすい。
シュンライ (大麦)	出穂期 4月27日 成熟期 6月上旬	短稈。穂数はべんけいむぎより少ない	短稈で倒伏しにくい。 千粒重が重く、多収	耐雪性が弱い(根雪期間が50日程度までの地域に向く)。 穂発芽しやすい(適期収穫する)。

### 3. 種子消毒を実施しましょう

麦類の主要病害である裸黒穂病や雲形病等を防除するために、種子消毒を行いましょ  
う。裸黒穂病や雲形病の防除には、薬剤と風呂湯浸漬法等との併用が有効です。

対象病害	防除法	留意事項
麦類 裸黒穂病 なまぐさ黒穂病 斑葉病 雲形病	●薬剤による種子消毒 ベンレートT水和剤20を乾燥種子重量の0.5%粉衣するか、 20倍液に10分間浸漬後、水洗せずに風乾してから播種。	他の消毒と併用する場合は 冷水温湯浸漬法等を行ってか ら 薬剤による消毒を行う。
小麦 裸黒穂病 なまぐさ黒穂病 ふ枯病	●冷水温湯浸漬法 袋またはざるに入れた種子を冷水に3~10時間浸漬する。 冷水浸漬後は、50℃の温湯に数分間浸漬し種子を温めた後 に、小麦 54℃・大麦 53℃の湯に5分間浸漬する。浸漬後 は直ちに水で冷却し、十分に風乾してから播種する。	水温と冷水浸漬時間の関係 水温 5℃ 10時間 水温 10℃ 5時間 水温 15℃ 3時間 ※温度と浸漬時間を厳守する。
大麦 裸黒穂病 なまぐさ黒穂病 雲形病	●風呂湯浸漬法 風呂の湯を42~45℃(小麦45℃、大麦42℃)とし、袋ま たはざるに入れた種子を約10時間、風呂の湯の中に浸漬 する。この際、風呂のふたは4~6cmあけておく。浸漬後 は水で冷却し、十分に風乾してから播種する。	温湯がざるや袋の中まで通る よう十分に注意する。

### 4. 適正な施肥管理を行いましょ

10a当たりの基準基肥量は、**窒素・リン酸・カリ各10kg**です。麦の生育は肥料の影響  
を受けやすいため、適正な施肥管理が重要になります。**堆肥等の有機物施用**も収量向  
上に効果的です(1t/10a程度)。

品 種 名	基 肥 量 (成分kg/10a) N - P - K	融 雪 期 追 肥
ナンブコムギ (小麦)	10 - 10 - 10	N成分 4 kg/10a
シュンライ (大麦)	10 - 10 - 10	N成分 4 kg/10a

※播種晩限である10月20日頃に播種する場合には、**基肥を2~5割程度増量**する

### 5. 適期播種ができるよう計画的に準備を進めましょ

**播種適期は10月1~10日、播種晩限は10月20日**です。近年は、播種時期の遅れによ  
り積雪前の生育量が小さくなり、結果として収量が低下するほ場も見られます。適期  
播種を行い生育量の確保に努めましょ。

播種方法	播種量	畦幅	播種深	播種時期
ドリル播き	10~12kg/10a	15~30cm	2~3cm	<b>播種適期：10月1~10日</b> (平均気温14~15℃の頃まで) <b>播種晩限：10月20日</b>

※播種晩限である10月20日頃に播種する場合には、**播種量を20kg/10a**とする